

2008 年度事業報告

I. 2008 年度活動概要

2008 年度、当協会が推進しております「100 年コミュニティ」として、神戸（伊川谷）、那須など事業と共に、島根県吉賀町においても福祉専門学校を核とした人材育成プロジェクトが開始されました。また、公益社団申請に向けた取組みを進めてきましたが、内部整備準備が整わず、来年度は見送ることになりました。

2008 年度は、次の事項を中心とした活動を展開した。

1. 重点活動

1) コミュニティ事業

多世代コミュニティのモデルづくりの推進

これまで CN 協会は新たな多世代共生の住まい方、暮らし方への賛同者を募りながら、ニーズや時代に対応する具体的事業として、地域包括ケアを取り入れた拠点づくりのプロジェクトに取り組んできた。今年度、神戸市伊川谷において、「完成期医療福祉」の理念をより確かなかたちとする「ゆいま～る伊川谷」プロジェクトを発展させることが出来た。

また、栃木県那須町における拠点づくりとして、「那須で 100 年コミュニティをつくる会」の活動が再開した。現地見学会とともに「那須での暮らし方を考える会」を毎月定例開催し設計部会を中心としたより具体的なプランを提示し合い早期着工に向けて始動している。

2) 人材育成事業

地域プロデューサ連絡会議を踏まえて、これまでの実績、事業をマニュアル化し、各方面でのネットワークの活用などにより、地域創生事業、資金調達、人材育成など様々な役割を担う地域のスペシャリストを養成する「地域プロデューサ養成塾」を 6 回にわたって開催した。

また、島根県・吉賀町において、「医療・介護・福祉・人材育成及び居住福祉」の視点で行政、町、福祉学校、当協会が連携を図り、将来を見据えた総合的な地域ケアシステムを吉賀町で構築することを目的としたプロジェクトを発足し、当協会の役割として「地域ケアシステムのプロデュース」「学校法人六日市学園介護福祉科への経営参画」を務めた。人材育成事業については、各報道機関による働きかけにより六日市学園への 21 年度入学生は予想以上の成果をあげる事が出来た。

II 定款事業報告

1. 社会の変革に対応し、人間性豊かな、住民自治に基づくコミュニティづくりを具体的に探求するための調査・研究及び提言等を行う（定款第 4 条（1）事業）

1. 委員会活動

(1) コミュニティファンド委員会：

・主な活動

「100年コミュニティ」の実現化をコミュニティファンドを通じて支援できるように、まずは啓蒙活動としてセミナーを開催し、参加者からは、新たなお金の使い方への提案に関心を示される反応が多々見受けられた。セミナー広報と集客が課題となった。

<開催セミナー>

1) 地域が元気を取り戻す活きたお金の使い方連続セミナー

講師：小溝毅（株式会社地域活性ファンド顧問）

①「サブプライムローン問題から学ぶ『お金』の活きた使い方」

【東京】9月12日4名 【大阪】9月17日9名 【神戸】9月18日7名

②「世界を駆けめぐる余剰資金と地域に役立つ『お金』の使い方」

【東京】9月25日3名 【大阪】10月1日5名 【神戸】10月1日1名

③「日本の資産運用の現状と『私のお金』が生み出す価値」

【東京】10月7日3名 【大阪】10月16日6名 【神戸】10月16日1名

2) 『「新しい貯金」で幸せになる方法』 ～未来への投資につながるお金の使い方～

講師：樫田秀樹（ルポライター）

【東京】11月16日10名 【神戸】11月18日25名

【東京】2009年2月22日16名

3) 「市民ファンドで風車が回った！」

～市民風車の事例から見る未来につながるお金の使い方～

講師：加藤秀生（株式会社自然エネルギー市民ファンド）

【神戸】2009年1月24日11名

4) 「サブプライム問題とその後 ～お金に意味を持たせる使い方」

講師：小溝毅（株式会社地域活性ファンド顧問）

【東京】2009年1月25日13名

(2) 事業評価委員会

前年度まで取り組んだ有料老人ホーム等高齢者住宅の事業評価を発展されるものとして、「高齢者住宅の認定制度」の制度設計に着手した。

これは、納得の行く高齢者の住まい選びのニーズに応えると共に、事業内容の点検を行い、その情報を公表することで事業者の姿勢を示し、入居検討者にとって不安を軽減するものとなる。認定制度の受審が広がることで、事業者の意識を変え、業界全体の底上げに寄与することをめざすものである。

事業評価改善提案に関わった委員に新たなメンバーを加え、認定制度基準策定委員会を設置し、お金、食事、介護、安心で気ままな生活の4指標に、経営の安定、建物の安全面の視点を加えた新たな指標を策定した。

3) 完成期医療福祉委員会

完成期医療福祉の構築事例を都市部では伊川谷と過疎地は那須の2ヶ所で調査をおこない、小規模多機能型と高齢者住宅として地域性における検証を試みた。また、那須においては、特養・デイサービス、グループホームのリサーチをすると共に、地域住民との交流も導入しながら経営的な視点も含めての数々の検証を実施。また、具体的なサービスのあり方として浅川澄一氏を招き基調講演を実施した。

実践できる場として、100年コミュニティの拠点である「ゆいま〜る・伊川谷」において、完成期医療福祉を構築する拠点としての「完成期医療福祉をすすめる会」を開始した。基調講演に柳田邦夫さんを招いたフォーラム開催、またセミナーでは、居住福祉の早川和男先生が講演を開催し、啓蒙活動を推進した。

2. 調査・研究事業

1) 北海道厚沢部町地域再生調査研究

北海道檜山郡厚沢部町は、道南に位置し、冬は積雪量も多いが、春から秋にかけては比較的温暖で、適度な雨量もある。厚沢部町は人口4,721人(2008年7月末現在)の過疎の町である。国勢調査によると人口は1960年の10,651人をピークに減少を始め、40年間でピーク時の約半数にまで減少した。推計では、この先15年ほどで、厚沢部町の人口はさらに1,000人減少するといわれており、人口減少は町の大きな課題のひとつである。また、厚沢部町の高齢化率は33.3%に達し、町内27集落(字)のうち、高齢化50%を超える集落が2集落存在しており、高齢化も町の課題になっている。

厚沢部町では、すでに子育て支援事業や高齢者生活支援事業、ふるさと定住促進事業、持家建設促進奨励事業、農業担い手育成事業など、急速に進む人口減少と少子高齢化に対する施策に取り組み、“過疎”を逆手に取った“素敵な過疎づくり”に動きだしている。

本調査は、過疎の町・厚沢部町において、住民の居住環境に対する意識や課題を抽出し、より住みやすい環境づくりや福祉の向上、また“素敵な過疎”に向けた方策を探るべく企画した。厚沢部町において平成20年度から開始した「地域再生プロジェクト計画」に基づき、「若年者層と高齢者層の絆が地域を元気にする厚沢部プロジェクト」を実施するものである。

調査の概要

厚沢部町の居住環境について住民の意見を把握し、厚沢部町をより住みやすい町にするための検討を行うために、アンケート票を用いた自記式配票調査を行った。

調査票は2部構成になっており、第1部は厚沢部町の居住環境全般についての住民意識を把握する調査内容である。(「厚沢部町の居住環境に関する意識調査」)。第2部は、高齢者の住まいに関連することについての住民意識を把握する調査内容である。(「高齢者の住まいに関する意識調査」)。

高齢者の住まいに関する意識調査と併せ、町民、高齢者施設等の関係者、行政担当者へのグループヒアリング調査を実施。意識調査は、厚沢部町全戸を対象にして実施した。調査票の配布数は1,882票、回収数658票であり、回収率35.0%である。調査期間は、2008年9月5日～9月16日。

2) 岩手県花巻市「自立・持続可能な地域づくりのための土沢ファンドプロジェクト」

花巻市東和町土沢地区は、旧東和町の中心街として、昨今の社会情勢の変化に伴う商店街の空洞化、コミュニティ活動の停滞化という二つの課題を抱えている。この課題を解決すべく、都市計画（街路拡幅・歩道設置）の具現化に向けた社会実験（期間中仮説歩道を設置）の実施、商店街全体をひとつのアート空間として見立てた「街かど美術館」の取り組み、個々の商店で普段とはちょっと（少しの意）違った販売促進企画を毎月持ち寄る「土沢ちょっと市」の開催、地権者の発意で商店街の5軒を対象に1つの複合施設に共同で立て替える「上町共同化事業」など、様々な活動を展開し、全国から注目されている。格差の進む都市と地方、そして商店街の空洞化とコミュニティの弱体化が進む地域において、その活力向上にむけた取り組みを持続的な展開にしていくためには、自己資金だけでは限界があり、行政や所管機関などによる助成金に頼らざるを得ないのが現状である。だが、一方で、助成制度は条件や時限性、制度そのものの改正・廃止等により、持続的な地域活動を展開していく上では、必ずしも頼りにすることはできない。

これらを背景に、地域活性化に向けた取り組み持続可能な展開にしていくためには、助成制度への依存体質からの脱却、即ち“自立可能な仕組みづくり”が今（土沢）地域で求められている。

調査の概要

持続可能な地域づくりを行う上で、大きな課題となっている財源を地域ファンドの仕組みを組成することで、解決の糸口を見出すための調査及び研究を行った。

1. 勉強会及び検討会の実施

- ・ コミュニティファンドの立ち上げに向けて勉強会の実施
- ・ 勉強会を通し、土沢に最適なファンドの方式を検討

2. アンケート調査の実施

- ・ 信託（出資）、寄付に関する動向調査
- ・ 支援される側（市民活動団体等）のニーズ調査

3. ファンドの立ち上げのパンフレットの作成

- ・ 支援する側、される側にとって、分かりやすいパンフレットを作成
- ・ パンフレットをもとに支援者（地域内・外）を募集

2. コミュニティづくりを推進するための事業を開発し、事業の運営組織のネットワークを構築し、コミュニティ事業を普及する（定款第4条（2）事業）

1) 那須プロジェクト

I. 2008年度活動概要

自然に囲まれながら共生の住まい方をつくりあげるとともに、安心システムとしての地域包括ケア、仕事、健康など多面的な事業を創設していくことを目的とした事業展開を行う。地域の市民や事業者との連携はもとより、酪農などを実践している異業種の事業者とともに多面的な連携を図りながら、地方再生のモデルづくりを目指し取り組んだ。2008年秋より、那須現地において、異業種の事業社との共同事業として森林酪農事業がスタートした。

また、栃木県那須町における拠点づくりとして、地域に根ざした多世代のコミュニティのモデルづくりを積極的に進めるため、「那須での暮らし方を考える会」をスタートさせた。

2) 神戸・伊川谷プロジェクト

神戸・伊川谷のまちづくりの拠点、生活支援システムを結ぶ拠点、学びの場との交流などをめざした「ゆいま〜る伊川谷」では、具体的な拠点づくりへむけた展開を始めた。

関西支部において、「完成期医療福祉をすすめる会」「居住福祉を探検する会」など2つの会を立ち上げると同時に、毎月のセミナーや勉強会の開催など、さまざまな取組みをした。

2008年度は、5月31日(土)「おひとりさまの老後」著者上野千鶴子さんを講師に、フォーラムを開催した。(参加者：300名)

フォーラム開催に当たって、「上野千鶴子さんの『おひとりさまの老後』を読む会」を7回開催し、配偶者がいてもいなくて、子どもがいてもいなくても、高齢になると「ひとりで暮らす」ことを覚悟し、準備すべきことについて、同書を読み込みながら、話し合う場となった。

1. 完成期医療福祉をすすめる会実行委員会

神代会長を中心に5月からは講座中心の会として、実践する人材育成を目的とした「完成期医療福祉モデル研修会」を開催した。

<完成期医療福祉をすすめる会実行委員会>

2008年5月17日(土) 自分の完成期を考えよう

6月14日(土) 医療関連知識(1)

7月12日(土) 医療関連知識(2)

8月9日(土) 医療者と信頼関係を築くには

9月13日(土) 看取りのできる環境

11月8日(土) 家族と完成期

2009年1月17日(土) 完成期の準備

2月14日(土) 完成期の具体例

<完成期医療福祉モデル研修会>

2009年2月7日、14日、3月7日、14日

2. セミナー・フォーラムの開催

セミナー

4月26日(土) 「自宅で死ぬということ」

講師：慶松真弓さん(柗結代表)

- 5月31日(土) 「おひとりさまの老後」
講師：上野千鶴子さん(東京大学教授)
- 6月29日(土) 「高齢者住宅の費用と暮らし」
講師：米沢なな子さん(高齢者住宅情報センター大阪室長)
- 7月26日(土) 「老いに向かう心の準備」
講師：高木忠彦さん(臨床心理士)
- 8月30日(土) 「自分らしいエンディングのあり方とは」
講師：廣江輝夫さん(株公益社)
- 9月20日(土) 「後期高齢者医療保険制度とは」
講師：中村正廣さん(中村クリニック院長 当協会常務理事)
- 10月25日(土) 「高齢者を狙う悪徳商法から身を守ろう」
講師：黒木麻実さん
- 11月29日(土) 「知っているようで知らない介護保険」
講師：安積美奈子さん(高齢者住宅情報センター大阪)
- 12月4日(土) 「私は120%生きた」
講師：神代尚芳さん(当協会会長)
- 1月15日(土) 「カウンセラーと考える豊かな老後」
講師：高木忠彦さん(臨床心理士)
- 2月28日(土) 「笑い療法士といっしょに、免疫力をアップしよう」
講師：小野裕子さん

勉強会

- 4月22日(土) 「初歩から学ぶ相続対策の基礎」
講師：堀田稔さん、川添登己男さん
- 6月13日(金) 「遺言と相続税対策の基礎知識」
講師：堀田稔さん、川添登己男さん
- 8月2日(土) 「任意後見人制度を利用するには」
講師：田辺明子さん
- 9月12日(金)、10月10日(土) 「任意後見人制度について」
講師：田辺明子さん
- 11月12日(木) 「任意後見人制度について」
講師：石古暁さん
- 12月18日(木)、1月15日(木) 「任意後見人制度について」
講師：石古暁さん

3. 高齢者等がグループで共住する場、コミュニティの交流の場、コミュニティ事業の拠点等、新しい生活スタイルを実現するコミュニティの場づくりを支援する(定款第4条(3)事業)

1) 那須設計コンペティション

自立者と介護者の生活ゾーンを分けず、混在型であること。コミュニティを育む場を台所・風

呂など日常空間を共用・シェアすることに任せ過ぎずに、住まい手の選択性が高いこと。個人の生活が独立性を持ち、開放的であること。を審査ポイントとし、全国 84 の応募作品から優勝者を決定した。

4. コミュニティ事業の指導者、組織者、協力者等の人材を研修、育成するとともに、そのネットワークを構築して協力関係づくりを推進する（定款第4条（4）事業）

1) 那須プロジェクト

(1) コミュニティ構想を実現するネットワークを拡充した。

①那須プロジェクト「那須での暮らし方を考える会」発足

1/19 新年懇親会 参加 22 名

内容：那須現地見学会参加者を対象に新年スタート集会とした。

2/14 「那須での暮らし方を考える会」参加 22 名

内容：参加型の暮らし方づくりの議論をスタートした。

3/22 「那須での暮らし方を考える会」参加 12 名

内容：那須での豊かな暮らし方をめざし、参加型で具体的な計画に向けてのアプローチを図った。

②「那須 100 年コミュニティ」の食を考える会を開催

8/29：19 名、9/28：9 名参加

<実施事業>

(1) 主催事業

①那須プロジェクト第 1 回セミナー

タイトル：「1000 万円と年金で豊かに暮らす住まい選び」

日時：2008 年 7 月 27 日（日）13:30～16:00

場所：銀座ふるさと暮らし情報センター

講師：近山恵子氏

参加：79 名

目的：那須 100 年コミュニティ構想のニーズを把握する。

主催：社団法人コミュニティネットワーク協会

②那須プロジェクト第 2 回セミナー

タイトル：「ひとりの家族 ひとりの老後 わたしの居場所」

日時：8 月 24 日(日)13:30～16:00

場所：ふるさと暮らし情報センター

講師：松原惇子氏

参加：50 名

目的：第 1 回目のセミナーの反響を受けニーズに対応。

主催：社団法人コミュニティネットワーク協会

③那須プロジェクトフォーラム

タイトル：「おひとりさまの老後」を支えるしくみづくり

日時：9月27日（土）13:30～16:00

場所：黒磯文化会館

講師：上野千鶴子氏、浅川澄一氏

参加：287名

目的：那須地元への活動のアピールと住まい手のネットワークの拡大。

主催：社団法人コミュニティネットワーク協会

2) 地域プロデューサーの育成

(1) 人材育成事業として、「地域プロデューサー養成塾」を東京にて全6回開催した。

【開講フォーラム】 2008年1月10日 女性と仕事の未来館（東京・田町）

・基調講演：北川正恭 73名

【第1-2回合宿】1月24日-25日 神戸伊川谷

・講師：近山恵子、神代尚芳、早川和男、佐々木敏子 14名

【第3回】 2月7日 東京 こどもの城

・講師：高見幸子、高橋英興、佐藤順一郎 17名

【第4回】2月21日 東京 NPO都市住宅とまちづくり研究会

・講師：袖井孝子、佐藤順一郎、駒尺佐紀 13名

【第5回】3月7日 東京 こどもの城

・講師：鈴木進、坂元良江、白鳥俊、久田恵 12名

【第6回】3月21日 東京 こどもの城

・講師：内山節、塾生プレゼン 12名

3) 島根県・吉賀町報告

吉賀町（甲）・学校法人六日市学園（乙）・CNグループ {社団法人コミュニティネットワーク協会（丙）、株式会社コミュニティネット（丁）} の4者において、「医療・介護・福祉・人材育成及び居住福祉」の視点で連携を図り、将来を見据えた総合的な地域ケアシステムを吉賀町で構築することを目的に、11月13日基本合意書を締結した。

これを機に、11月より職員1名が六日市学園に出向。吉賀町での事業展開を開始した。

1) 甲の役割

- i 医療法人石州会六日市病院や吉賀町社会福祉協議会を始めとした、医療・介護各関係組織との調整
- ii 吉賀町が策定した又は今後策定する諸計画との調整
- iii 乙と丙及び丁の三者間で交わされた別添合意書の内容が、円滑に履行されるための調整又は調停

2) 乙の役割

- i 社会の要請を正しくとらえ、地域社会に貢献できる看護師・介護福祉士の育成
- ii 介護事業機関及び医療事業機関との連携
- iii 地域に対する看護・介護情報の発信と研修の実施

3) 丙及び丁の役割

- i 地域ケアシステムのプロデュース
- ii 学校法人六日市学園介護福祉科への経営参画

12月吉賀町において、地域住民・役場職員・基幹病院・六日市学園等へのヒアリング調査を行い、吉賀町が求めている町の将来像について確認した。調査の中から浮き彫りとなった事項としては、基幹産業である農業を軸に、安心して暮らせる地域ケアシステムの整った町づくりを希望していることが判明した。今後は、行政を中心に吉賀町のアクションプラン作成を行っていく。

また、六日市学園での人材育成事業については、21年度に向け学生募集を行った。吉賀町・六日市学園・CN協会が一体となった介護福祉士人材育成の取組みを、報道機関を通じ、全国へ発信。吉賀町・六日市学園の認知度を上げることで、六日市学園入学へと繋げる広報活動を展開した。更に、都心部での学生募集セミナーを開催し、吉賀町の説明・離職者訓練制度を活用した国家資格「介護福祉士」取得について具体的な説明を行う等、並行して学生募集活動に取り組んだ。最終的に、六日市学園への21年度入学生は43名となり、当初予想以上の成果をあげる事が出来た。

(主な活動内容)

1. 学生募集関係

*12月下旬より広報活動を開始

*2009年1月 県立益田高等技術校より離職者訓練養成校としての受入打診があり、介護福祉士養成を受ける。現在、連携を取りながら学生募集を進めている。

*学生募集セミナー開催

東 京：1月31日 暮らしと住まい情報センター（町の説明実施：吉賀町長）

参加者 61名

報道関係機関 NHK（1月31日放映）、テレビ東京（1月31日放映）、
日本電波ニュース社、山陰中央新報社

吉賀町：2月14日 吉賀町六日市基幹集落センター

参加者 10名

報道関係機関 朝日新聞者

大 阪：2月22日 阪急グランドビル26階（町の説明実施：吉賀町副町長）

参加者 57名

報道関係機関 朝日新聞生活情報部、読売新聞堺支局 労働担当者、
神戸新聞社会部、NHK松江支局、読売TV
日本電波ニュース社

広島：2月28日 YMCA ホール （町の説明実施：吉賀町長）

参加者 10 名

報道関係機関 中国新聞社

2. まちづくり関係

*吉賀町住民を対象に“まちづくりセミナー”を開催し、地域コミュニティの重要性、その中での、自分らしく生きる生き方について、参加者で考える機会を設けた。

吉賀町：2月11日（水） 14：00～16：00 吉賀町役場

演題：安心して老いることに取り組む

“地域のかかりつけ医” の話を聞こう

講師：中村正廣氏

主催：吉賀町、共催 六日市学園・CN 協会

参加者：60名

報道関係機関：読売テレビ、山陰中央新報社、読売新聞松江支社

吉賀町：3月1日（日） 14：00～16：00 吉賀町役場にて

映画とトーク：わたしの葬送日記

講師：松原惇子氏

ノンフィクション作家、SSS ネットワーク代表

主催：吉賀町、共催 六日市学園・CN 協会

参加者：63名

報道関係機関：山陰中央新報社、読売新聞松江支社

吉賀町：4月11日（土） 14：00～16：00 六日市基幹集落センターにて

持続可能なコミュニティづくりのヒント

～吉賀町の環境・農業を生かした産業と雇用の可能性を探る～

講師：熊野 英介氏

アマタ株式会社代表取締役社長

主催：吉賀町、共催 六日市学園・CN 協会

参加者：32名

【報道関係掲載等】

新聞

掲載新聞名	記載面	日時	掲載形態
山陰中央新報	社会	2009. 1. 6	記事

山陰中央新報	総合	2009. 1. 9	記事
新聞			
山陰中央新報	総合	2009. 1. 11	記事
東京新聞		2009. 1. 23	記事
共同通信社	神奈川新聞、高知新聞、東奥日報	2009. 1. 29	記事
朝日新聞	東京マリオン	2009. 1. 29	セミナー告知
読売新聞	くらし・家庭	2009. 1. 30	記事
中国新聞	朝刊	2009. 1. 31	記事
山陰中央新報	総合	2009. 2. 1	記事
毎日新聞	夕刊 1 面 (大阪)	2009. 2. 4	記事
日経新聞	朝刊	2009. 2. 6	記事
読売新聞	朝刊 島根版	2009. 2. 11	記事
山陰中央新報	朝刊	2009. 2. 13	記事
朝日新聞	朝刊	2009. 2. 17	記事
朝日新聞	朝刊 (広島)	2009. 2. 24	記事
神戸新聞	朝刊	2009. 2. 23	記事
朝日新聞	朝刊	2009. 3. 10	記事
朝日新聞	朝刊 (石見)	2009. 4. 8	記事
中国新聞	朝刊	2009. 4. 8	記事
山陰中央新報	朝刊	2009. 4. 10	記事

テレビ

社名	番組等	日時	
NHK	全国版	2009. 1. 31 18:00	放映
NHK	島根版	2009. 1. 31 21:00前	放映
テレビ東京	TXN フラッシュニュース	2009. 1. 31 17:20	放映
テレビ朝日	報道ステーション	2009. 1. 30 21:58	放映
共同通信	Web ニュース	2009. 2. 1	Web ニュース
読売テレビ	大阪 (取材依頼)	2009. 2. 23	放映
NHK	全国版	2009. 3. 5	放映
NHK	島根版、中国版	2009. 4. 7	放映

5. コミュニティ事業及びコミュニティづくりを促進するための企画の実施及び啓発・広報・出版を行う (定款第 4 条 (5) 事業)

1) 暮らしと住まいの情報センターの常設

情報の受発信や、相談を受けて問題解決する場として、高齢者住宅、ふるさと暮らし、地域再生を柱とした「暮らしと住まいの情報センター」を開設。ウェブや通信物等で情報発信するほか、常設の展示場での情報提供、専門の相談員による住みかえを主とした相談業務を行った。

また、住まい方、暮らし方を中心としたセミナーや懇親会を開催し、情報提供や意見交換を行うほか、利用者同士の交流の場としても活用した。

高齢者住宅情報センターとして東京・名古屋・大阪でネットワークを組み、個々のニーズに合わせた高齢者住宅の情報提供を行った。

<2008年度の主な活動>

第三者的な立場で高齢者およびその家族の住み替え相談に対し、情報提供や紹介を行った。

高齢者住宅情報センター主催で高齢者住宅に関するセミナーや見学会、イベントとして東京と大阪では事業者を集めたフォーラムを開催した。

また、各種高齢者団体や行政、民間企業などが主催するセミナー講師を多数依頼された。

2) 広報

1. 会報誌「ゆいま〜る」を年4回定期発行した

①発行：

34号 2008.04.15

* 巻頭言：家族論、はじめよう

理事長：近山 恵子

* 巻頭特集1：完成期入門「自分らしく死ぬってどういうこと？」

対談：神代尚芳（CN協会会長） × 慶松真弓（㈱結 代表取締役）

35号 2008.07.15

* 巻頭言：家族一黙っていてもわからない

顧問：袖井 孝子

* 巻頭特集：第2のふるさとで老いるということ

36号 2008.10.15

* 巻頭特集：おカネって何だ？

・ お金を知り、お金を活かす 「エンデの遺言」が問いかけること

・ 所有から利用へ コミュニティファンドが拓く、お金の新しい可能性

対談：鈴木亨（自然エネルギー市民ファンド代表取締役） × 高橋英興（CN協会副理事）

37号 2009.01.15

* 巻頭特集：なぜ完成期医療福祉か？

対談：高木忠彦（西神戸臨床医学研究所副所長 臨床心理士） × 近山恵子（CN協会理事長）

2. 銀座通信を隔月定期発行した

高齢者住宅情報センター主催の見学会、セミナー開催の情報提供（東京）

III. 協会運営

1. 総会

*2008.6.7(土) 臨時総会 2008.12.13(土)

2. 理事会

*2008.06.7(土)、2009.03.14(土)

3. 常務理事会

*2008.04.24(土)、2008.09.6(土)、12.13(土)、11.29(木)、2009.01.31(土)、03.14(土)

4. 会員加入促進活動

1) 加入状況 09年3月末現在(08年度末)

法人：正会員	4、	準会員	1、	賛助	68	
団体：正会員	4、			賛助	2	
個人：正会員	93、			賛助	92	
合計	正会員	101	準会員	1、	賛助会員	162
						=264 (07年度末 208)

2) 情報提供の拡充

(1) 常務理事会の定期報告

(2) 各種セミナーなどの情報提供

5. 事務局体制 : 合計 2名

事務局長 1名、事務局 1名